令和５年度第２回横浜市いじめ問題対策連絡協議会	
（日時）	令和５年 10 月 20 日（金）15：00～17：00
（場所）	横浜市庁舎９階共用会議室 N-12
（出席者）	後藤賢一、一條裕喜、志田政明、岩間文孝、東隆幸、大幸麻理、新庄広、 加藤貴久、川尻基晴、佐々井正泰、田口香苗、内田沢子、近藤浩人 14 名
（欠席者）	松本豊、永瀬哲、遠藤寛子
（開催形態）	公開（傍聴者０名）
（議題）	１ 協 議 （1）12月のいじめ防止啓発月間における取組について （2）12月のいじめ市民防止フォーラムの内容について ２ その他（報告及び依頼） （1）令和４年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果について （2）令和５年度横浜市いじめ防止啓発月間における取組の記者発表資料確認について（依頼） （3）【参考】ピンクシャツデー2024 in 神奈川について （4）令和６年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について
（議事）	**１ 教育委員会挨拶** 近藤部長より挨拶 **２ 会議録の確認** 岩間委員に決定 **３ 協議** **（１）12 月のいじめ防止啓発月間における取組について** **（大幸会長）** 第１回協議会の協議内容に基づき事務局が準備を進めていると聞いていますので、進捗の報告をお願いします。 **（事務局・藤田主任指導主事）** 概要につきましては、第１回の協議会で御説明しましたので、今回はポスターについて御説明します。前回の協議会で、新しくポスターを作成すると説明させていただき、事務局で進めて参りました。本協議会直前まで業者と調整を重ねておりましたため、今、皆様のお手元に資料として用意してございますのは、最終修正の前段階のものでございます。そして、今回こちらが、最終版となります。お手元の資料から、文字の大きさを統一し、色合いの修正を行っています。昨年度までは、「横浜市いじめ防止月間を周知する」という意味のポスターでした。今年度は、御覧になった方に、よりいじめについて理解していただく、また、いじめ防止について自分事として関わっていただく、そんなポスターを目指して作成してきました。内容としては具体的なエピソードが入っており、それからいじめ防止対策推進法の定義、また「あなたにできること」についても記載しています。ふと立ち止まっていただいて、１人の市民、それから大人として、いじめの概念やいじめ防止を自分事として考えていただけたらと思います。 **（大幸会長）** 前回の協議会で、いじめをどのように捉えるかということや、アニメのようなもので分かりやすく表現したほうがよいのではないかという御意見をうけての事務局案となっているようですが、いかがでしょうか。では御意見なしということで、ありがとうございます。

（２）12 月のいじめ市民防止フォーラムの内容について

（大幸会長）

続きまして、12 月のいじめ市民防止フォーラムについて事務局、説明をお願いします。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

２点説明させていただきます。今年度のいじめ防止市民フォーラムですが、12 月１日（金）14 時から、横浜市庁舎の１階アトリウム及び市民協働推進センターで行います。テーマは昨年度と同じく「オール横浜でつながり広げるいじめの未然防止の輪～いじめをなくすために私ができること～」です。今年度は、会場と参加する学校をオンラインでつないで、フォーラムの様子を発信する予定です。また参加校の取組の様子や、今までの子ども会議のあゆみ等についての動画を上映したり、各区の子ども会議のレポートを展示したりということも行う予定です。

フォーラムの内容についてですが、前半にグループ協議、後半にパネルディスカッションを行う予定です。グループ協議には、東西南北の各方面から選ばれた２つの中学校ブロックの代表の子どもたちが集まります。小中学生合わせて 30 名ほどになる予定です。今年度は、特別支援学校からも１名の参加を予定しています。各グループに、オブザーバーとして、本協議会の委員の皆様に参加いただき、協議の様子を見守り、最後に協議についての価値づけやコメントをいただきたいと考えております。グループ協議に参加する児童生徒には事前にワークシートを配布し、自分の考えを記入したうえで参加します。ワークシートですが、児童生徒には、いじめ防止対策推進法で示されているいじめの定義を読み、それについて感じたことや考えてきたことを整理してきてもらおうと考えています。いじめの定義を理解したうえで改めて「身近にどんないじめがあるのか」、「いじめをなくすためにできることは何か」について、より自分事として考えてもらいたいという意図があります。

後半のパネルディスカッションに参加するのは、小・中・特別支援学校それぞれの児童生徒の代表３名と、学校・保護者・地域の各代表大人３名ということで、計６名の方に参加をしていただく予定です。ファシリテーターは大人が担当する予定です。保護者代表として、横浜市ＰＴＡ連絡協議会の会長の東委員にお願いしております。地域代表として、本日は御欠席ですが、横浜市子ども会連絡協議会の会長の松本委員にお願いしています。パネルディスカッションのテーマも「いじめをなくすために私ができること」ですが、６名のパネリストがいじめに対して率直に意見を交流し合える時間にしたいと考えています。想定としては、ディスカッションの中で「いじめの定義を踏まえると、身近にいじめがたくさんある。」といった発言や、「相手が傷ついたらいじめになるということは、これからも自分も人を傷つけることがあるかもしれない。知らないうちに人を傷つけてしまうかもしれない。」といった発言があるのではないかと考えています。また、「自分が傷つけられることがあるかもしれないけど、その時どうしたらいいんだろう」や、「いじめって本当にそもそもなくなるんだろうか」、「大人の世界はどうなのかな」といった意見交流が、パネルディスカッションの中で、できるようにと考えております。改めて、いじめを自分事として捉えながら、いじめについて真剣にディスカッションする様子を発信したいと思います。また、パネルディスカッションの中で、何か最後に提言をまとめるのではなく、パネルディスカッションを通して、いじめについて本気で議論することの必要性を参加されている方に感じてもらいたいと考えております。

説明は以上になりますが、是非、委員の皆様から御意見をいただきたいことが２点ございます。１点目は、グループ協議にオブザーバーとして参加いただくにあたり、参加の仕方について御意見いただきたいです。２点目は、グループ協議、パネルディスカッションの内容や方向性について御意見をいただきたいと思います。

（大幸会長）

事務局から「いじめ防止市民フォーラム」についての説明がありました。何か御意見等おありの方いらっしゃいますか。

（志田委員）

方向性はよいと思います。このような形で、いじめの定義などを事前に自分なりの考えとしてまとめたものを発表し合うということは、とても良く、そういった内容が参加者に伝わっていくということもよいことだと思います。まとめる必要はないと思いますが、みんなで「こうしよう」とか、「ああしよう」とかといった何か結論ではないのですが、「こうしていったほうがいいよね」といった方向性がでてきてくれたら嬉しいです。

（大幸会長）

今年の横浜子ども会議は、子どもたちが各学校、各中学校ブロック、そして各区でいじめについて話し合っています。今回のフォーラムでは、さらにその話合いを市レベルで行うという流れになっているかと思います。今、志田委員がおっしゃったように、前向きな子どもの意見がたくさん出るとよいなと私も考えています。他に御意見ございますか。

（新庄委員）

グループ協議について質問です。既に、どこの学校が参加するというのは決まっていますか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

現在、各方面で、２中学校ブロックで調整を行っていまして、ほぼ決定している状況です。現在は、１中３小を想定していますが、ブロックごとに校数が多少異なりますので、グループの人数などは今後前後していく可能性はございます。

（新庄委員）

18 区それぞれに子ども会議がありましたが、そこで活発に議論をしている子をスカウトするような形で選ばれたのですか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

それぞれの中学校ブロックで、様々な話合いをしてきてくださったということで、その様子を踏まえて選んでいきます。

（新庄委員）

40 分という限られた時間なので、最初から積極的に話せる子もいると思いますし、慣れないとなかなか話せない子もいます。ですので、最初から遠慮なく話せるような子というのは意見が強くなって周りも遠慮してしまったり、その子だけで場が回ってしまったりするようなこともあるかもしれないですし、そこで誰かが嫌な思いをしたら、それはいじめの定義にはまってしまいますので、その調整が難しいと思いました。最初にアイスブレイクがありますが、その前に一度どこかで集まって話をするような機会があってから、フォーラムを迎えると、もっと議論ができるのかなと思います。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

その点は、自分の意見を準備できるような事前ワークシートを用意するなど、工夫していこうと思っています。また、今、仰っていただいたようなアイスブレイクといった形で、話しやすい環境づくりは検討したいと思います。

（新庄委員）

細かく台本を決めるなどはしないのですか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

そうです。

（大幸会長）

この場で初めて会う人たちと話し合うわけですね。そこにオブザーバーの大人が入っていくわけですが、大人の役割は、資料に書いてあるように、協議の様子を見守ることと、「それは素晴らしいことだね」とか、「こういうようなことがいいね」というような価値づけを

して、子どもたちの発言を聞くということでよろしいですか。

（川尻委員）

中学生がファシリテーターということですが、そうすると、中学生はどの程度発言しますか。ファシリテーターというのは、通常はあまり積極的に発言しないで、話合いを回す役割というイメージだと思います。今回のグループ協議ではどういう役割を想定されていますか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

ファシリテーターをお願いしようと思っていますが、中学生にも中学生なりの意見は言ってほしいと思っています。

（川尻委員）

進行しつつ、発言もするというのは大変なことだと思います。オブザーバーは「最後まで見守っている」、若しくは、「迷走などしているようだったら、少しコントロールする」などが考えられますが、オブザーバーにはどのような役割を期待するか、という点はいかがでしょうか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

そういった点も、委員の皆様で御意見いただけたらと思います。

（大幸会長）

昨年度もグループで協議の時間がありましたが、昨年度参加された方に、子どもたちが話合いを活発に進められるために、大人がどのように関わっていけばよいか御意見をいただけたらと思います。中学生は本当に話せる子、話せない子と様々です。子ども会議でも、台本がなくても、とてもよくお話ができるお子さんが中学生にはいます。代表の方に選ばれる方たちは、そういうお子さんが多いのかとは思いますが、ただ、初めての場で緊張もあるだろうという点では、大人の支えは必要かと思っています。

（岩間委員）

昨年度参加しましたが、私のいたグループは進行がとても良く、前半は本当に見守りで、子どもたちが話しているのを聞いているという関わりでした。後半になると、小学生だと難しい課題が出たりしまして、言葉に詰まった時に、「じゃあ、ちょっと一緒に考えよう」と声をかけるなどのフォローはしましたが、大枠は児童生徒たちでできたかと感じています。

（大幸会長）

昨年度は、「いじめをなくすために自分たちに何ができるか」といったことが話の中心だったと思います。今回は、いじめの定義や、身近にどんないじめがあるのかといった自分たちの実生活に立っての話合いになる予定です。皆様方がオブザーバーとしてお入りになることを想定していただいて、お考えいただければと思います。

（佐々井委員）

私も昨年度参加しましたが、グループの話合いの内容がとても良く、前回の協議会でもお話したように思いますが、「我々が子どもの頃からこういう話ができていたら、今、いじめはないかもしれないけど、大人の世界でも今まだいじめがあるのは我々が対処できなかったからだと思う。ごめんね。」と最後にお話ししました。実際に、皆さんもニュースで御存じかと思いますが、名古屋城の改築の問題で、その場で発言が出た時に誰も止めることができませんでした。フォーラムに参加されるお子さんたちなので、こういったことはまずないと思いますが、もしかすると中学校・小学校の段階としては、大人から見ると「この言い方は人を傷つけかねない」という発言が出る可能性もあって、我々はフォーラムの場でしか関与できないので難しいのですが、その場では、誰か傷つきそうな人がいたら発言者を傷つけないように関わっていく、フォローしていくというのが求められるのかと考えています。とても難しいとも思いますが、一生懸命聞いていきたいと思っています。

（後藤委員）
　昨年度参加させていただき、やはりこういったところに参加する児童生徒たちですので、非常に上手にお話されていました。ただ、私が参加したグループは、協議がスムーズにいって、割と早めに終わってしまいました。そういったこともありますので、進行を務める方には、大体のタイムスケジュール的なものを事前にお示ししておいた方がやりやすいのかなと感じました。また、ワークシートを個別に持ってきて、発表するということですが、ワークシートについて、各学校で事前に練習のようなことはされるのかどうかを伺いたいです。学校で、先生方から「大体何分ぐらいだよね」という見込みをあらかじめ児童生徒に伝えておくことで、児童生徒も自分なりの話す内容を考えてくるのかなと思います。そういった点を確認させていただきたいです。
（大幸会長）
　後藤委員の御質問は、事前に各校で、参加する子どもたちが話すことの大体の内容と、時間の感覚を練習するのかという御質問ですね。
（後藤委員）
　参加される児童生徒さんの個人の意見ということで、このフォーラムに参加するのか、ある程度、「どういうことを発表するのか」ということで、先生など大人がその前段階で関わるのかというところをお聞きしたいです。
（大幸委員）
　事前にワークシートを書く、ということですと、小学校だと関わると思います。中学校ではいかがですか。
（新庄委員）
　私の個人の感覚としては、代表の生徒は夏の区の子ども会議で、意見をまとめていくということをやっているので、その生徒に任せた方がいいのかなと思います。
（後藤委員）
　小学生と中学生では違うと思いますので、やはり、その場に出てきて、どうしても緊張してしまう子も、小学生だといらっしゃるのかと思いますので、参加される前から大人がフォローするようなこともできればと考えています。
（大幸委員）
　せっかく代表で選ばれているので、会場で何も話せないということがないように、学校ではきちんとフォローすることも大事かと思います。
（新庄委員）
　中学校での感覚で申し上げますと、生徒と先生が打ち合わせなどしますと、「先生の意見に沿った方が理想的なんじゃないか」と子どもは結構考えるので、割とその子どもの意見のようで実は大人の意見となってしまったり、もう出尽くされて当たり前のような意見になってしまったりして、若者の自由な発想が出てこないのではないかと思います。「ダイナミックにやって来なさい」と言い切ってしまった方が、我々が考えもしないような意見も出るのではないかという期待を持っています。
（大幸会長）
　小学校でも、「このように書きなさい」、「このように言いなさい」ではなく、ワークシートをきちんと理解させて、「こういうことを聴かれているんだよ」、「君はどう思うかな」、「ワークシートに書いていなくても、当日、自分の中で新しく意見が生まれたら、それを言っていいんだよ」といった関わりになるのではと思います。
　このフォーラムでは、本当に子どもたちの素直な、正直な意見、本音が出てくるよう、大人が支えながら進めていく形となるかと思います。どんな方向に流れていくのか分からないからこそ、オブザーバーとして皆様に入っていただくことになるかと思います。
（志田委員）

色々な意見が出るのはよいことだと思います。「分からない」でもいいと思うのです。そういうものが出てくることが大事で、それに対して、皆で話合うのが良いと思います。発表の仕方については、中学生から話し始めてしまうと小学生から見ると大人を見ているような感じになってしまって、引きずられてしまうような可能性があるので、できれば小学生が先に、自分の思いや「こんなこと考えてきました」というのを話した後に、中学生が話す、というのがいいのではないでしょうか。

（大幸会長）

中学生の進行役には事前にレクチャーや台本があるのでしょうか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

タイムスケジュールというお話もあったので、何かしら参考になるものがあった方がいいかと今は考えています。

（大幸会長）

今回、子どもたちにいじめの定義を事前に勉強してきてもらうということでした。これは何か意図があるのですか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

いじめの定義を知らない子どもも多い中で、子どもたちに、改めて身近にどのようないじめがあるのかというのを自分事としてとらえてもらうために、まず、いじめの定義について理解してもらうということを考えました。

（内田委員）

私は、昨年度参加させていただきましたが、私のグループでは、中学生の方の傍に、教職員がいらっしゃって、ちょっと心配そうに伴走しているような感じでした。中学生はファシリテーターをやるのが大変そうに見えました。一方で、小学生の方は、とても積極的に意見を言っていて、中学生は、自分の意見をどこで言ったらいいだろうといった感じだったように思います。ただ、話の内容としては、活発で、とても良く、ほかの人が言っていることを聴いて、どんな発言をするのかというのも楽しみだなと思いながら参加しておりました。

（大幸会長）

中学生は少し大変かもしれませんので、中学生が困ったところでは、大人が助けることも必要でしょうか。ただ、子どもたちが主体の話合いというところを柱にして、入る大人がそこを大事にしていくというところは皆さんよろしいでしょうか。子どもたちの話合いがどのように進んでいくといいなというイメージはございますか。

（志田委員）

事前に考えて来てくれるので、それなりに良いことも考えて来るかなと期待したいと思います。今日の資料の中で、資料３にいじめの調査内容結果がありますが、認知件数が増えているという結果が出ています。これは良いことで、これまでわからなかったものを、学校が「いじめを見つけよう」とした結果、これだけの件数をわかるようになったということです。学校としてもこういう風にやってきていますし、子どもも、「何がいじめで何がいじめじゃないか」というのを分かるようになることが大事だと思います。「これ、いじめだよね」、「これ、いじめじゃないよね」というのをフォーラムで話し合うことができたらいいなと思います。

（新庄委員）

せっかくお子さんに「嫌な思いをしたら、させたらいじめ」といういじめの定義を理解してきてもらうのであれば、フォーラムにはクラスのリーダー的なお子さんが集まると思うのですが、今までの経験の中で、意地悪されたわけじゃないかもしれないけれど嫌な思いをした経験とか、「つい親切でやったけど、あの子とても悲しそうだったから、あれって嫌な思いさせたのかな」という経験談を語ってもらって、「じゃあそれをしないためにはど

うすれば良かったのか」といった、かなり具体的に、踏み込んだ話合いをしてほしいと思っています。例えばＳＮＳの問題なども赤裸々に出るようなこともあると思うので、そういったところに、子どもたちの議論が入っていってほしいですし、そういう促しをしたいと思います。

そこで、特別支援学校のお子さんも参加されるとのことですが、ある程度の配慮が必要かと思っているのですが、お考えのことはありますか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

まだ、調整中ですが、グループ協議後のパネルディスカッションにも参加してもらおうと思っています。お子さんによって状況は違うと思いますが、当日のフォローや事前の支援はしっかりとやっていきたいと考えています。

（大幸会長）

新庄委員のお話にもありましたが、子どもたちの協議の中身ですが、「身近にどんないじめがあるのか」といった点で、自分たちが経験したこと、見聞きしたこと、具体的に出てくるのかと思います。委員の皆様、フォーラムでの協議のイメージは沸いてこられたでしょうか。パネルディスカッションについてはいかがでしょうか。

（新庄委員）

パネルディスカッションに参加する児童生徒は、グループ協議の内容を見て、当日スカウトするのですか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

フォーラムに参加する子どもたちの中から選んで、事前に了解を得る予定です。できれば、事前にパネルディスカッションの内容についてやりとりもしたいと考えています。

（後藤委員）

昨年度は、パネルディスカッションを担当する生徒が各グループの討議を取材していたと思いますが、今回はどのような方向を考えておられますか。昨年と同様の形か、自分が参加していたグループ討議の内容のみを持って発表するのか、という点を教えてください。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

今年度は、グループの一員として中に入ってもらって、そこでグループの協議に専念してもらおうと考えています。その後のパネルディスカッションについては、自分が参加したグループの中で出たことを報告してもらうというよりは、それも踏まえながら、あくまでも自分の意見として、小学校の代表として、中学校の代表として、特別支援学校の代表として、自分の意見を言ってほしいと思っています。

（新庄委員）

突飛な意見かもしれませんが、代表の子どもたちですが、このフォーラムだけでおしまいでしょうか。英語やスピーチコンテストですと、その後海外に行ける催しなどもあります。子どもは、役割を与えればそういう意識をもって活躍できると思います。これで終わらずに、小学校代表として、中学校代表として、その世代の前線に立って、「いじめをなくしていこうぜ」といったアピールをどんどんしていけるような人材だといいなと思うのです。その子たちがもっともっと活躍できるようなところがあるといいなという意見です。

（大幸会長）

ピースメッセンジャーのようなイメージですね。

（東委員）

１つ質問があるのですが、この特別支援学校から参加するというのは今回が初めてでしょうか。それとも過去にもありましたでしょうか。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

過去にも参加しています。

（東委員）

私は特別支援学校部会の代表として市Ｐ連に入っているのですが、特別支援学校部会で研修会を開いて、いじめについて話合いをした際、障害のある子どもたちは団体行動をすることがあまりないので、普通の小中学校の子たちといじめの環境やいじめに対する感覚が随分違うような印象があるのです。例えば、グループ協議のグループに、特別支援学校の子が１人、２人入って議論した際、障害があるというところで差別したり、区別されたり、いじめられたりという話が出た時に、もしかすると、40 分という限られた中で、本当は、子どもたちは、もっと自分の身近なテーマで話がしたかったけれども、実際は少し障害者に特化したような話に流れていく、ということもあるのではないかと思いました。個別支援級といった普段みんなと一緒にいる子どもたちであれば、おそらく話も近いのですが、特別支援学校は、どうしても少し分けられている感じがしますので、この中に入って話をするということはどのような状況になるのかなと思っています。過去の例などもあれば教えていただけますか。

（事務局・髙﨑指導主事）

まだどのお子さんに参加いただくかというのは検討している段階ですので、捉え切れていない部分もあるのですが、参加してもらうからには、その辺の配慮もしっかり行っていきたいと考えています。

（事務局・住田課長）

高校の子ども会議には、特別支援学校の高等部の生徒さんが参加しています。ですので、そういう話合いの経験というのは高等部の方であれば持っているということが１つ言えるかもしれません。

（大幸会長）

今、お話しいただいた特別支援学校のお子さんのいじめに対する意見や感覚を知ることもとても大事な機会になりますし、そういうことも含めてみんなが、ということもあると思います。一方で、話の流れに注意していかなければならないということは東委員の仰るとおりだと思います。

（事務局・髙﨑主任指導主事）

今年度、各区の交流会の中で、区によっては特別支援学校のお子さんが参加している区もありました。その辺の経験を踏まえながら考えていきたいと思います。

（大幸会長）

加藤委員、今の話題の中で、何か懸念などあれば教えていただければと思います。

（加藤委員）

私が参加したことがないので、今、お聞きして、イメージが掴めてきたところなのですが、特別支援学校と言っても、色々な校種があります。最初、パッと見た時に、高等特別支援学校のお子さんならと思ったのですが、小中なのでね。小中となると、知的障害のあるお子さんだと、話の全体像がなかなか捉えづらい子どもたちもいますので、そうなると、どう特別支援学校代表を打診するか、発達障害のお子さんなどが対象になるのか、などと色々考えながらお聞きしていました。ただ、理解できなかったとしても、理解できる範囲で自分の考えを言ったり、経験を話したり、聞くことが分からなかったら「もうちょっと分かりやすくしてもらえますか」と尋ねればいいと思います。広く捉えれば、児童生徒には良い経験になりますし、そういう場で、お話をする機会は少ないので、自信になっていく場になればいいなと思っています。

また、そのお子さんが落ち込んでしまうことがないように、オブザーバーの皆さんにフォローしていただけたらと思います。ここに集まるような子どもたちなので、障害のある友達に対して、その人が嫌な思いするようなことは言わないとは思いますので、取り残され感がないような形でやっていただければいいのではないかとお話を聞きながら思っていました。

（大幸会長）
　代表の３名の子どもたちが、それぞれが自信をもって意見を言え、いじめをなくすための発信をしていこうといった気概が生まれてくるといいのかなと思います。東委員は当日パネルディスカッションに参加されるとのことですがイメージは大丈夫でしょうか。
（東委員）
　パネルディスカッションでは、保護者としてのいじめに対する考え方をまとめておくという形ですかね。
（事務局・髙﨑主任指導主事）
　そうです。
（東委員）
　分かりました。しかし、ディスカッションですので、そこで出た意見に対し、例えば「では、保護者としてどう思いますか」と質問が来て、それに答える、といったことを想定していけばよろしいでしょうか。何分初めてで、不安だらけですが頑張りたいと思います。
（田口委員）
　Zoom で配信されるということですが、これはイベント中ずっと撮っていて当日学校の皆さんが御覧になるということですか。
（事務局・髙﨑主任指導主事）
　はい、同時配信です。
（田口委員）
　では、Zoom で見ている側が意見を言うことはないですか。
（事務局・髙﨑主任指導主事）
　本当は意見のやり取りができればよいのですが、今回初めての試みなので、時間的な制約を考慮して、今回は発信を聞くことのみで考えています。
（田口委員）
　グループ討議はどのような形で配信しますか。
（事務局・髙﨑主任指導主事）
　今、検討しているのは、８グループごとにカメラをセットして、Zoom で視聴いただく学校には、自分の学校の代表が出ているグループにアクセスをしていただき、そのグループの様子を見ていただくということをイメージしています。全体の場でやるものに関しては、全体のステージの様子を見ていただくという形にしようと考えています。
（新庄委員）
　パネルディスカッションは小学校代表、中学校代表、特別支援学校代表、学校代表、保護者代表、地域代表となっていますが、「いじめ防止市民フォーラム」なので、やはり横浜市民の皆様に広くアピールしたいというのが狙いの催しだと思います。そういう意味で言うと、子どもたちの身近な組織としてはスポーツ団体もありますし、塾などもあると思います。そういった方々も広く市民であり、いじめ対策に携わる必要があるとしますと、学校やここに来られていない方々に、どのようにアピールするかというところは非常に大切ではないかと思います。私も、今後、スポーツ団体の方々にいじめの研修をする予定があります。学校以外の団体でも、そういうものも積極的にやりたいと思っているとしますと、どうやって、そういった方々に対して、この会の趣旨ですとか、この会で考えていることを伝えるかということがとても大切だと思います。このチラシやポスターといったものをそういった方々にも是非お伝えいただきたいというのが要望です。
（大幸会長）
　「広く市民に」という視点で積極的に広報を行うという点は、事務局よろしくお願いします。フォーラムについては、こちらでよろしいでしょうか。それでは、３の「その他」に進みます。先日記者発表したしました「令和４年度『暴力行為』『いじめ』『長期欠席』

の調査結果」について、事務局より御説明をお願いします。

４　その他

（１）令和４年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果について

（事務局・土井主任指導主事）

資料３の１枚目を御覧ください。昨年度、令和４年度の「『暴力行為』『いじめ』『長期欠席』の状況調査結果」を御説明します。暴力行為は、昨年度は 4,939 件ということで、一昨年度と比べて 71 件減少という結果になりました。いじめの認知件数は 12,248 件で、昨年度と比べて 4,692 件増加しています。長期欠席者数は、10,771 人ということで、昨年度と比べて 1,135 人減少しています。長期欠席者数の中で不登校の児童生徒数ですが、8,170 人ということで、こちらは昨年度と比べて 1,554 人増加となっています。

暴力行為についてですが、横浜市では児童支援・生徒指導専任教諭が中心となって軽微な暴力行為を見逃さず組織で把握しており、1,000 人あたりの件数が全国平均を上回っています。児童生徒の内面やその背景の理解に努め、未然防止の取組に重点を置き、温かい人間関係づくりやチーム学校としての対応及び関係機関との連携強化を進めていきます。

いじめ認知件数についてです。文部科学省の見解に基づき、初期段階のいじめを学校いじめ防止対策委員会により積極的に認知したことや、喧嘩やトラブルを双方が傷ついたことに着目し、双方にいじめとして認知した結果、認知件数が大きく増加し、全国平均に近づきました。今後も早期発見・早期対応に努めます。

不登校についてです。不登校児童生徒数は、23.5％増加しています。これは全国とほぼ同様で、全国は 22.1％となっています。長期化するコロナ禍による生活環境の変化や、不登校に対する保護者の意識の変化などが背景として考えられます。学校内、学校外、家庭と児童生徒一人一人にあった安心できる居場所と、個別最適な学びを提供できるよう、引き続き対応・支援に取り組んでいきます。

ここからはいじめについて詳しく御説明します。資料３の５ページ（６枚目）を御覧ください。いじめの認知件数は、前年度から小学校では 3,860 件増で 62.6％増加、中学校では 832 件増で 59.9％増加しました。小中合計では、前年度から 4,692 件増、62.1％増加しています。いじめの態様については、「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。」の２項目を合わせると小学校 74.9%、中学校 78.8%といずれも７割を超えています。

資料３の６ページ（７枚目）を御覧ください。いじめの年度内（令和４年４月から令和５年３月まで）における解消件数ですが、小学校では 56.2%、中学校では 49.8%、小中合計で 55.1％となっています。解消件数は小学校で 1,830 件増加、中学校で 343 件増加し、小中合計では 2,173 件増加しています。年度内に解消できなかったいじめについてですが、令和５年７月末において確認できた、令和４年度のいじめ解消件数 2,651 件を加えますと、解消率は、76.7％です。なお、前年度は 81.7％となっています。

資料３の７ページ（８枚目）を御覧ください。いじめ発見のきっかけですが、当該児童生徒の保護者からの訴えは 4,483 件で全体の 36.6％です。本人からの訴えは 4,117 件で、33.6％ですが、この２つで全体の 70％以上を占めています。いじめ認知件数が大きく増加した理由として、各学校長のリーダーシップの下、初期段階のいじめを学校いじめ防止対策委員会により積極的に認知したことや、けんかやトラブルを双方から傷ついたことに着目し、相互にいじめとして認知するようになってきたことがあげられます。今後も早期発見・早期対応に努めます。

いじめの未然防止の取組として、発達支持的生徒指導、課題未然防止教育を推進し、児童生徒がいじめの定義への理解を深め、相手意識を育めるように横浜子ども会議の取組等を通していじめの問題に向き合い、自分ができることを考えたり話し合う機会を充実させ

ます。いじめの早期発見のために、日頃から児童生徒、保護者と信頼関係を築くことや、定期的な教育相談、アンケートの実施、横浜プログラムを活用したＳＯＳの出し方教育の実践等を引き続き行ってまいります。令和５年度からいじめ早期発見のための記名式アンケートを実施しており、実施後の教育相談や見守りを確実に行い、教職員が児童生徒のＳＯＳのサインを見逃さず受け止めることができるよう取り組んでいきます。

（大幸会長）

ただいま事務局から令和４年度の調査結果についての説明がありました。皆様から御意見御質問等ございますか。

（佐々井委員）

資料３の１枚目に調査対象学校数は記載されていますが、調査対象児童生徒数は教えていただくことはできますか。

（事務局・土井主任指導主事）

小学生が 176，234 人、中学生が 77,719 人です。

（川尻委員）

同じく調査項目に関することですが、いじめの小学校、中学校別というのが出ておりますが、学年別や男女別などでもデータをとっていますか。

（事務局・土井指導主事）

いじめについては、特に男女別などについてはとっておりません。

（川尻委員）

児童相談所に関わる事例の中で感じることですが、男女の様々な課題の違いを、多分、皆さんも様々な場面で感じられているかと思います。例えば、いじめに関しても、どの年代に、また例えば、男児が多いのか女児が多いのかというのは、もしかしたら傾向があるのではないかと直感的には感じていまして、そういった点がデータで分かればと思ったのですが、現状そういったデータはないということですね。

（事務局・土井主任指導主事）

はい。これは、国の調査なので、横浜市が独自で項目を作成しているものではありません。様々なことを検証するために、項目を工夫するといいのかもしれないのですが、昨年度のこの調査については、決まった項目でやらせていただいているというのが現状です。

（田口委員）

２点ありまして、まず、この調査はどのように実施されたのかを教えていただきたいです。もう１つ、今後の対応のところで、こども青少年局で９月 10 日から「よこはま子ども・若者相談室」という、ＬＩＮＥで悩みをなんでも相談できるという窓口ができましたので、是非、それも今後の対応の１つに使っていただけたらと思います。我々も教育委員会と連携して、広報用のカードを学校にも配布させていただきます。「学校にも、親にも言えないけれど、ＬＩＮＥなら相談できる」ということもあると思いますので、ぜひうまく使っていただけたらと思います。

（事務局・住田課長）

この調査は国が実施する調査で、正式名称は「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」というものですが、10 年以上にわたって行われています。社会情勢等で多少変化しているところはありますが、基本的には経年変化を見るということで、設問項目自体はあまり変わっていません。そのため、いじめについては、男女別といったところが取られていないということや、数が取られていても、それぞれの関連性がどこにどのようにあるのかという検証ができるデータにはなっていないというのが現状です。そのため、そういったことも踏まえて文科省の方でも設問項目自体を検討しているようです。

実際には、学校に質問紙をデータで送り、学校の方で教員がそれに答えて、校長の許可の下こちらに回答していただいています。そのため、いじめのことに関して言いますと、

横浜市の場合には各学校が毎月いじめ認知報告書を出していますので、その数字と整合性が取れるように、この調査への回答がされています。

（田口委員）

子ども自身にさらにヒアリングするといったことはありますか。

（大幸会長）

それはないです。学校がきちんと記録をとっていて、それに基づいて回答しています。

（志田委員）

認知件数が増加しているなど、良い方向に向かっていると感じていますし、こういったことを継続していくのが大事だと思います。「いじめをどのような形で発見したか」というところで、「本人から」、それから、「保護者から」が多いという点も良い傾向だと感じています。以前は、親から言われると「駄目だ」となったり、なかったことになってしまったり、ということもあったのではないかと思います。また、いじめの定義を皆で理解できると良いと思いますので、学校で、皆で定義について話し合えるとよいなと思います。校長先生を委員長としたいじめ防止対策委員会だけでなく、学校のクラスの中でも、皆で話し合う、意見を出し合うといった機会も作っていけたらよいのではないかと思います。

（大幸会長）

学校は、法律でいじめの定義が示された時に、教職員レベルでは研修をして、皆で理解したということですが、子どもたちにも理解を深めてもらわなくてはならないということですね。

（志田委員）

「それはいじめになるよ」といったことをみんなが感じていく、そこで、子ども同士で注意ができる、といったことができるようになったらいいなと思います。

（新庄委員）

学校では、年２回いじめの大々的なアンケートをとっています。いじめの定義は教職員には浸透していますが、一方で、子どもたち自身が今、友達から受けているものに対して、「これいじめだな」、「嫌な気持ちしているな」、ということをはっきり認識していないケースが結構あるように思います。子どもたち自身が、自分が嫌な思いしているということは、ある意味、自分の人権が侵害されていて、あってはならない状況だということを知っていくための啓発活動は必要だと感じています。

もう一つ、この調査は文科省が発表して、メディアにも取り上げられますが、「いじめが増えている」のではなく「いじめの認知が増えている」わけです。どうしても、メディアは、「いじめが何件増えました」と言ってしまいますが、いじめが増えている感覚は、現場としてはなく、いじめ認知が増えているのです。そこをアピールしていただいて、「認知が増えているのは良いことなんだ」、「学校が子どもたちの思いを感度高く受け止めているんだ」とそういう論調になってほしいと思っています。

（志田委員）

どうしても新聞は、「数字が増えて、これだけ酷いことになっている」と伝えたくなるものですが、そうではなくて、これだけ認知されるようになったという伝え方をしてほしいですよね。参考の記事案を渡しておくのもいいかもしれません。「何件増えたから大変」ではなく、「これだけ見つけることができた」という切り口の記事で、「見つけられてないのはまだあるから、それを早く見つけよう」といった流れになってほしいですね。

（大幸会長）

学校の話となりますが、小学校では担任だけで抱えてしまうと、そこで埋もれてしまって対応がされなかったりすることが前はあったかと思います。今は「学年の子どもたちを学年みんなで見る」という体制に小学校は進んできています。中学校のようにしっかりした学年組織というのが、なかなか小学校では難しいのですが、児童支援専任教諭に共有し

て学年全体で対応するというところや、いじめ防止対策委員会もきちんと開かれているといったところでも、組織として対応を考えるということが進んできていると御理解いただけると嬉しいです。

（佐々井委員）

先ほど小学校、中学校の児童生徒数のお話がありましたが、中学校÷３と、小学校÷６の人数に大きな差があるのは、私立中学校に通われるお子さんが多いのかと思います。きっと、私立は私立なりに法人さんがちゃんと対応されていると思うのですが、もし、私学の協議会などあるようでしたら、そこにフォーラムの開催案内を情報提供したりなど何か横浜市としてできることはあるのでしょうか。

（事務局・土井主任指導主事）

市民全体に開いているものですので、周知という意味では、ＨＰに掲載しています。直接、私学の学校にそれぞれに伺ってということしておりませんが、広くお知らせをすることで、来ていただけたらという呼びかけにはなっております。

（岩間委員）

先ほどの認知件数の話で、つい先日、東横線に乗っていたら「いじめが増えた」と知らない方々がお話していました。「認知数が増えた」ことの誤解がまだ強くあると思います。認知するというのはとても大事で、学校の先生など、色々とそのためにやっておられると思います。我々、放課後に子どもたちと関わる場などのスタッフも、「認知するというのはとても大事だよ」というのが広まっていくと、いじめは学校だけで起こっていることではないので、より子どもたちの安全が保障されるかなと感じました。

（大幸会長）

ありがとうございます。皆さんでそのように真心をもって子どもたちを導いていけるといいのかなと改めて思いました。それでは次の「横浜市いじめ防止啓発月間における取組の記者発表資料確認について」御説明をお願いします。

（２）令和５年度横浜市いじめ防止啓発月間における取組の記者発表資料確認について（依頼）

（事務局･土井主任指導主事）

資料４―１を御覧ください。今年もいじめ防止啓発月間について、11 月中旬頃を目途に記者発表を行わせていただく予定です。資料４－１の裏面に各種取組の紹介ということで「横浜市いじめ問題対策連絡協議会の取組」を添付させていただきたいと思います。皆様の取組について、記載内容を御確認いただき、修正等あれば 10 月 31 日（火）までに、事務局まで御連絡ください。

（大幸会長）

御質問等ございますか。ないようですので、ピンクシャツデー2024in 神奈川について、事務局、御説明をお願いします。

（３）【参考】ピンクシャツデー2024 in 神奈川について

（事務局･大西指導主事）

ピンクシャツデーの御紹介です。なかなか着る勇気がなかったのですが、今日はピンクのシャツを着て出社しました。同じフロアを回ってみましたが、やはりピンクのシャツを着ている方というのは１人もおりませんでした。それが由来にもつながりますが、カナダで中学３年生の男子生徒がピンクのポロシャツをからかわれて、それを知った高校３年生の２人が自分たちもピンクのシャツを着て、いじめをケアしたということです。私自身は、今日一日、ピンクシャツで過ごしましたが、フロアで好奇の目で見られるということは一度もありませんでした。ぜひ皆様もピンクのシャツを着ていただいて、それぞれの組織の感性を確かめていただければと思います。ぜひこの運動に御理解御協力ください。

（新庄委員）

	ＰＲさせていただきたいのですが、大鳥中学校は一番大きなブロックで、本牧中学校ともう一つの中学校、つまり２つの中学校と４つの小学校で、２中４小のブロックになります。中区の子ども会議で子どもたちから出たのは、６つの学校みんなでピンクシャツデーをやろうということで、先生たちも含めて何かピンクのものを付けることになっています。ハロウィンみたいにはなかなか広がらないとは思いますが、そういったところが子どもたちの中から広がれば良いなというふうに思っています。 **（大幸会長）** ありがとうございます。私の学校では「もう１年に１回じゃなくて毎月やろうよ」という子どもたちがいます。毎月第４水曜日が、私の学校ではピンクシャツデーです。みんながピンクになるわけではないですが、先生たちもピンクを着て、毎回ピンクのものを身に付けてくる子もいます。ただそれが、イベント的なものになってしまうのでは意味が違ってきてしまいますので、「『やっぱりいじめを許さない、やらない、駄目なんだよ』っていうメッセージだよ」という本質的なところが、ぼやけないようにしなくてはいけないというところは気を付けながらやっています。学校では様々そういったことを工夫してやっていくところがあるかなと思います。 ありがとうございました。では、本日の議題については全て終わりました。皆様他に御意見等ございませんか。では、これを持ちまして本協議会を閉会いたします。 ＜閉会＞
（資料）	令和５年度第２回横浜市いじめ問題対策連絡協議会次第 （資料１－１・２）12 月のいじめ防止啓発月間における取組について （資料２－１・２）12 月のいじめ市民防止フォーラムの内容について （資料３）令和４年度「暴力行為」・「いじめ」・「長期欠席」の状況調査結果について （資料４）令和５年度横浜市いじめ防止啓発月間における取組の記者発表資料確認について（依頼） （資料５）　【参考】ピンクシャツデー2024 in 神奈川について （資料６）令和６年度 いじめ問題対策連絡協議会開催について